DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
忍者の生まれた日
添牙いろは
Soekiba Iroha
イラスト：ターヤ

いまでこそ、
みんな気軽に写真を撮ったり
ネットに上げたりしているけれど……
私が学生の頃に
スマートフォンなんてなくて
本当に良かったと思う。
だからこれは――

若かりし頃の思い出ばなし。

人前で露骨にイチャつくのはあまり良くないことだとは思う。しかも学校ともあれば、そのような行為は不適切極まりない。
だから私たちは人目につかないよう、雨の日の屋上の階段室に来ていた。外に出られないのだから、ここに来る理由はあまりない。
だけど、寄ってくる人たちは何故かいる。
「ん……んふぅ……あふぅ……❤」
彼氏の膝に乗って、唇は舌まで吸い尽くす勢い。制服の向こう側を探るように、私はグニグニと腰をくねらせる。
それはきっと、艶っぽいというより、むしろ下品。だけど、それがそそるのでしょう？　扇情的に映るのでしょう？
だからこそ――良くも悪くも、見過ごせない人はいるわけで。
「おーい、そこのバカップル。ナニしてんだー……」
怒鳴ることもできず、穏やかに声だけかける大久保先生。どこかの生徒が告げ口したみたいね。そして、呼ばれたからには先生としても無視はできない。
そんなお使いのような教師に向けて、私は白々しくとぼけてみる。
「彼氏とイチャイチャしてました～❤　別に、男女交際禁止、って校則はありませんよね？」

「あー……そうなんだが……その体勢はマズイというか……」
「抱き合ってるだけですって。ね、清貴(きよたか)♪」
そう言って、私はおまんまんをきゅっきゅと締めてみた。そうすると、おちんちんも……あは、喜んでくれてるね。
「一応確認しとくんだが……ソレ以上のことは、してないんだよな？」
「ええ、もちろん」
と、私は平然と嘯く。これを、先生は疑わない。踏み込まない。
「そうだな。先生も、生徒の証言を信じよう」
言うべきことを言ったところで、先生は何をすることもなく上ってきた階段をそそくさと下りていった。
元々平和な学校だったけれど、今は、さらなる平和が求められている。
そのためには、コトを荒立てることは許されない。
私たち生徒だけでなく、教師たちも。
大人が去り、若者だけが残された階段下に向けて、私はスカートを捲り上げる。
その幕の内側で繰り広げられていた男女の繋がりが明らかとなり、そのどよめきと視線が、私を熱くしてくれた。

忍者の生まれた日

添牙いろは

目次

忍者の生まれた日 9

忍者の里帰り 217

忍者の生まれた日

いま、この学校は難しい状況にあるらしい。

次の三月で定年を迎える校長先生は、職員室の母のような存在であり、先生方は一丸となって円満退職で送り出そうとしている。間違っても、ここで何か問題を起こして、引責辞任などさせるわけにはいかない。そのためには、年度末までは何としても穏便に過ごす必要がある。

だから……大久保先生は、私たちの意見を尊重した。どう見て挿入(はいっ)っている体位なのに、確認することもせず。

確認してしまっては、指導しなくてはならなくなるから。

指導しては、問題になってしまうから。

それをいいことに……私たちはこんなところで臆面もなく愛し合っている。覗きに来い、なんて喧伝したつもりはない。でも、噂が噂を呼んだのでしょうね。時折、屋上前の階段でセックスしているカップルがいる、と。

だからこそ、今日は昼休み早々に声を掛けられてしまった。逆を言えば、もうやってくることはないだろう。

東の間の安全が得られたのなら……もうちょっとサービスしてみたい。踊り場の折返しの陰から覗く幸運な男子たちと……私自身に。

もうすぐ二学期も終わる一二月ともなれば、廊下といえどもかなり凍える。だとし

ても……それで性感(カン)じるのなら肌を曝け出すこともやぶさかではない。
「清貴ぁ……身体の向き、変えていい？」
制服のボタンを外しながら、彼氏に恥知らずなことを頼み込む。付き合っている以上、私の貞操(カラダ)は私だけのものではないから。
でも、熱視線を送ってくる男子たちにもお裾分けしてあげたい。それが、恋人から歓迎されない行為だったとしても。
「知り合いいない？　大丈夫？」
……あ、おちんちんが本気で不安がってる。このままゴリ押ししたら萎えて抜けちゃうかも。それは、彼も私も恥ずかしい。
多分大丈夫だと思うけど……一応確認。
「問題ないわ。別学年の人ばっかり」
顔見知りに見られたら恥ずかしいってのはあるかもしれないけれど、顔見知りだって見たら恥ずかしいものよ。
だから――
引き抜いて振り向いた先には知らない男子だけ。揃いも揃ってデレデレニヤニヤ。ただ、彼らは私の顔を覚えているのかしら。みんな、おっぱいばっかり凝視してるもの。

そして、スカートを捲りあげれば、今度は下半身ばっかりに。その真下には清貴のおちんちんが勃起っているんだけど、そっちは見えてないかも。でも、これから見なきゃならないのよ。だって――

どよ、どよ、どよ……と腰を落とす度に視線が音となって聞こえてくるみたい。その熱気に当てられて、ズブリ、ズブリ、と根本まで咥えこんじゃった。清貴のおちんちんを、私のおまんまんで❤

「はぁ……はぅ……はぅ……」

下から見上げる男子三人にとって、きっと世界のすべては私になってる。

私以外のことが、すべて意識から外されてる。

視姦られてる……私のすべてが！

「はぅっ、はぅん……はぁん……❤」

昼休みの校舎内は様々な音が行き交っている。その中に、私はこっそり嬌声を混ぜ込ませてもらった。それを受け取ることができるのは、私の背後でおちんちんをくれている彼氏と、階段下のエロ男子たちだけ。

そんな役得なメンバーのために、私は自らスカートを引っ張り上げたまま、腰を……ズブッ、ズブッ、ズブゥッ……て！

「いいっ、いいのぉ……おちんちん……いい……っ！」

わざとおっぱいを派手に揺らせば、少しだけおまんまんから視線を奪うことができる。けど、やっぱりその瞬間を逃すまいと、また指定の視姦位置へ。

あぁ……おっぱいとおまんまんが男子の意識を取り合ってる……♪　どっちも気になって、どっちも視姦たいのにうまくいかないのが面白い。

「雛菊っ……射精そう……っ」

彼氏が耳元で小さく呟く。おちんちん苦しいんでしょ？　だって、すごく締め付けてるから。

締め付けずにはいられないから。

私もすっごく性感じているもの！

同じ学校の人たちに視姦られながらセックスなんて……あぁ……あぁ……っ！　私も……私も――

ビュルルッ！　ビュプゥ！　ドプゥっ！

「絶頂っ、絶頂ウウウウっ❤」

ビクビクっ、ビクンっ、ビクン……っ！

おぉー……って溜息が聞こえてきた気がする。清貴のおちんちんからビュルビュル

とジュースが注がれたところを……もっと魅せたい……

「き……清貴ぁ……❤　おちんちんペロペロしたいのぉ……♪」

ズルリと勃起いままのおちんちんを引き抜くと、白くてドロッとした原液がお尻の方へ流れていく。それも構わず私は清貴が座る階段のちょっと下へと足場を移し、再び彼の方へと向き直った。スカートを完全に捲り上げ、お尻をベロリと剥き出しにして。

清貴のおちんちん目掛けて食いつけば、お尻に向かっていた赤ちゃんエキスは毛の方へ。それは、ポタリ、ポタリと床に跡を残してゆく。休み時間が終わる前に拭いておけばいいわよね。

それを踏み擦らないように、私は足を横へと移していく。おちんちんにチュッチュしてるところが視姦えるように。でも、やっぱりおまんまんの方が優勢なのかな。じゃあ、手を伸ばして……ニョキリと二枚肉を開いてあげましょ。多分、まだおちんちんに拡げられたままのおまんまんがヒクヒクと口を開いてると思う。そんな恥ずかしいところを視姦られちゃうと……あぁ……触りたい！

「んっ、ん、んふぅ……❤」

おちんちんを咥えながら、クリに精子を塗りつける。あぁ……こっちでも妊娠しちゃうかも！

「むふっ、む、む、むぅ……っ」
もう見え方なんて関係ない！　喉におちんちんの香りを性感(カン)じながら、クリをクリクリ、お膣をジュプジュプ。お尻の穴まで視姦(みか)られちゃってるに違いない！
視姦(みか)られて……男のコたちを夢中にさせて……私も……夢中になっちゃう！　気持ち良くなることに……夢中になっちゃう……っ！
もう、もう……いいわよね……？　後始末のことを考えると億劫だけど――それ以上に……やらかしたい！

「むっ、むっ、むふぅぅぅぅ❤❤❤」
プシャアアアアアア……
ビチャビチャビチャ……ビチャビチャ……

あ……やっちゃった……学校の廊下なのに……
だって、ここでお漏らししたら、下の男子たちに噴き出すところを視姦(みか)てもらえるんだもの！　そんなの……恥ずかしすぎて、そして、気持ち良すぎる……❤❤❤
水浸しになった階段を見る限りでは、踊り場までは届いてないみたい。でも、驚いたのか、さすがに引いたのか、潮噴きと同時にみんな潮が引くように逃げちゃった。

それでも、噴き終わるところまでちゃんと見届けてから、ってのが現金よねぇ。視姦(みかん)るもの視姦(みかん)終えたことで我に返ったのかもしれないけれど。

そして、私自身も少なからず我に返れた。

ぅ……清貴のヤツ、これ見よがしに溜息なんてついて。

「……あーあ、早く拭いとかなきゃ」

「わっ、わかってるわよ！　まだ昼休み時間あるでしょ!?」

どっちにせよ視姦男子(ギャラリー)もいなくなったし、二回も絶頂(イケ)て私は満足。とはいえ、清貴の方は……まー……でしょうねー……

「放課後は貴方に合わせてあげるんだから手伝いなさいよ。ねっ？」

おっぱいを露出(だ)したままギュっと抱きしめれば……いや、そんな必要もなかったか。

「もちろん、一緒に掃除はするよ。だって僕たち……恋人同士なんだから」

「……そ、そうね」

こうはっきり言われると、今でも少し照れてしまう。

そして……こんな彼に愛してもらえることが、本当に幸せだとも思えるのだった。

＊＊＊

最後の潮噴きはやりすぎだったと自分でも反省はしている。でも、その直前まで最後の一線だけは守ってきた――つもりだ。スカートで隠しながら繋がってたのもそうだし、見せつけセックスだって、胸元さえ隠せば一応誤魔化せる。

私のいう一線とは――学校側に、見逃す言い訳を持たせること。明らかに黒だけど、白の可能性を僅かながら残すことで、私はギリギリの体裁を保ってきた。

なのに、清貴のヤツは……いつもやりすぎなのよ！

すべての授業が終わって教室が空になると、私たちはそこで裸になる。それも、昼休みのように隠せる用意もなく、上から下まで床に落として。そんな取り返しのつかない姿になったとき――彼の性欲は初めて本気になってくれる。そうしないと本気になってくれない。だから面倒くさいし、そこがイヤ。だけど、そんな彼が私は大好きだ。

私の恥部をジロジロと品定めする厭らしい視線。

絶えず柔肌を撫で回し、あわよくば押し倒そうとする両腕。

そして何より……一回りも二回りも勃起（おお）きくなった……おちんちん❤

こんな彼に犯された快感は、膣（カラダ）の奥深くまで刻み込まれている。それを覚えてい

るからこそ、ヒクヒクと反応せずにはいられない。
欲しい……欲しいから……つい、従ってしまう……！
脱いでいる最中は閉じきっていた扉。それを、裸になった清貴は躊躇なく開け放つ。
「それじゃ行こっか！　いまなら一階に誰もいないんでしょ？」
下階のことを尋ねられるなんて、冷静に考えたら変な話よね。だけど、私には判ってしまう。周囲でうごめいている人々の気配が。自分のこの能力に気づいたのは、変態彼氏の変態行為に付き合うようになってからだけど。そもそも、服を着た日常生活では、そんなことを気にする必要もないのだから。
なので、その範囲も自分ではよく判っていない。とはいえ、少なくとも上の階や、職員室の方にはちらほらと動きが感じられる。一方、これから向かおうとしている一階については教室まで空のようだ。
「ええ、残念ながら、ね」
本当に、相変わらずこの男は馬鹿よね。誰にも見られていないのなら、外で脱いでも中で脱いでも変わらないのに。それでも彼は、こうして色んなところへと行きたがる。屋上から校舎の隅々まで……おそらく、この学校の敷地に、裸で踏破していない場所はないだろう。
だからこそ、困るのに。こんな恥ずかしい格好で危ういところを連れ回されたら…

…視姦られたくなっちゃう……❤

どうやら、私と清貴で引いている一線の位置が違うらしい。彼の基準では〝誰にも見られていなければセーフ〟ということのようだ。しかし、その線は私が踏み越えたくなってしまう。人の気配を感じると……あえて魅せつけたくなってしまう。

お互い、露出狂であることには違いない。だけど、ちょっとだけ食い違う。でも、そこは譲り合えばいい。お昼に、清貴が私に付き合ってくれたように。

来週から期末試験が始まることもあり、一般教室の並んだ新校舎側に人の気配はなくなった。ならば……そこから臨むグラウンドを覗く人もいないだろう。もし居ても、傘で隠せばいい――それで、清貴は天気が崩れるのを待ち望んでいたようだ。こんな冷たい冬の雨を。風邪を引かないように、短時間にしてもらおう。

廊下を歩いている時点で既に寒い。教室の暖房は強めにしたまま出てきてるから……戻ってきて空調の前で抱き合えば、すぐに温かくなるかもね❤

昇降口まで来たところで、私たちは上履きを仕舞い込む。だけど、靴は履かない。わざわざ泥だらけのところへ行くのだから、腹を括って素足の方がいい。ということで、靴下も一緒に脱いでおいた。なのに、傘だけ差すというのも、ちょっと滑稽かもしれない。そんな格好でペタ、ペタと濡れたアスファルトの通路を歩いていく。足の裏は痛いくらいに冷たい。なのに、身体の奥底から溢れてくる想いは、まるで湯船の

ようだ。
もうすぐ……犯される……
欲望を煮え滾らせた清貴に……❤
それを思うと、自分の厭らしさが再認識させられてしまう。
とても恥ずかしいことを清貴から強いられているのだと。
なのに、それを自らも望んでいるのだと……！
だから私の肌は、恋人からの愛撫を望んでいる。
例え、冷えてしまった指先だとしても。
「はぅんっ❤」
清貴の傘は既に地面の上。それで雨から逃れるように、こちらにグイグイと身を寄せている。でも……なんて卑猥な相合い傘！　一つの傘に……男女ふたりで裸なんて！
背中から抱きしめているのは、絶対その後を考えてのこと。
その後の……抱き合い方を考えてのこと！
「あ、あんっ……はぁっ……」
冷たい手に、私の胸が弄ばれている。いつの間にか育っていたふたつの膨らみは、片方の手の平では収まりきらない。それを握り込むようにクニュクニュと。さり気な

く乳首もコリコリしてくれるので……あぁ、性感(カン)じちゃう❤

さらには、背中とお腹をピッタリとくっつけ、お股に突き出したおちんちんを通して。お尻は大きい自覚はないけど……こっちは大きい方が喜ばれるのか、小さい方が喜ばれるのか……好みが分かれるのかもしれない。おちんちんと同じで。とはいえ、少なくともおちんちんについては彼くらいの大きさが私には嬉しい。

うなじにキスをされると、少し伸びてきた後ろ髪が彼と絡まる。できれば、もう少し伸ばしたいのよね。友人に言われて切っただけで、本当は束ねられるくらいが好みだから。

私の全身をもてあそびながらも、わざわざ校舎の方へと向けてくれているのは、彼なりのサービスなのかもしれない。もし、誰かに見つかったとしても、先ず視姦されてしまうのは私。視線を浴びせられるのは……私の痴態(カラダ)……っ！

期待の詰まった乳首を冷たい手でクニクニと刺激されると、それに反発するようにもっと熱が高まってくる。

そして、その熱は女のコの方へと下りてきて……欲しい、欲しいの！　でも、自分で触ったら意味がない。清貴に……清貴の……！

「ひゃぁんっ！」

蕩けだしたソコに、凍える指先はちょっとツラい。

「ダメよ清貴。女のコの子宮(おなか)を冷やしたら」
そしたら、わかっているはずなのに、あえてこんなことを訊いてくる。
「じゃあ、どこで触れればいいのかな？」
そんなの、決まってるわよ。冬の寒さをモノともせず、熱が集まっているところがあるのだから。
女としての恥じらいなんてものは、変態だと自覚したときに捨てている。欲しいものは欲しいし、気持ちいいことは気持ちいい。
だから、私ははっきりと！
「おちんちん！　清貴のおちんちんで、私のおまんまんを温めて❤」
本当は、わざわざ校庭で前戯する必要なんてなかった。
それは、外に出る前からずっと。
清貴のおちんちんが勃起(おおき)く反り返って……私の肉壷(カラダ)を狙っていた間、ずっと。
私は、それを求めていた。
目を離せなかった。
清貴が、私から目を離せなかったように。
だからそれは、むしろ遅すぎた。
そのひと撞きで――私の理性は即時陥落――！

「はっ……はぅぅぅん……❤」
ごめん、清貴。せっかくの計画を台無しにしちゃって。
傘があるからこそ視姦られないはずだったのにね。
だけど、もう無理。
もう……抑えられないの！
私の両手はダラリと足下へ。ふたつの傘は、揃って地に落ちてしまった。
校舎には僅かながら誰かが残っている気配がある。その人たちが、帰宅するために廊下に出れば……って、もう廊下に出てる！
「あ、あっ、はぁんっ、はぅぅぅぅん❤❤❤」
視姦られたら……見つかったら、どうしよう！
どうにもならない……どうにもならないけれど……
でも、止めないで！　いま、最高に……燃えてるのっ！
「いいっ、いいっ、いいの清貴ぁっ！　もっと、もっとおちんちんしてぇっ！」
ヤバイ！　三階を歩いてた人……立ち止まってる！　ここからじゃよく見えないけど、廊下で立ち止まる理由なんてあまりない。視姦られてるのかも!?　私たちが雨の中、素っ裸で交尾してるの……視姦られてるのかも!!
でも、ここからじゃ細かな動きはわからない。少なくとも、窓を開けている様子も

ないから。

だけど……視姦られてるかもしれない……その可能性が、私の理性を溶かしてゆき

ビシャァっ！　ビシャァっ！

清貴が腰を引くたび、もうひとつの穴から噴き出す微温湯。前に校庭でエッチしたときは靴だけ履いていたので、濡れないように逃げられてしまったけれど……今日はつま先からおちんちんまでスッポンポンだもんね♪　私のお潮を浴びながらも、清貴の腰の動きは止まらない！

「はぅんっ！　あぁんっ！　凄いのっ、凄いのぉっ！」

ビシャァっ、ビシャァっ、ビシャァっ、ビシャァっ、ビシャァ……

だーっと垂れ流すのもいいけど、こうやって撞かれながらお漏らしするのも……あぁっ、気持ちいいっ！

いっぱい潮噴してしまった分、清貴もいっぱい射精してね！　当然……私の膣内に！

「雛菊っ！　射精よ……！」

「受精てぇっ！　私も……絶頂そう……っ！」

ビュクルっ！

「はっ、はうっ、はうううう……っ❤❤❤」

男のコの熱を子宮が性感じると……それをもっと欲しがって、私の膣が収縮していく。水溜りさえなければペタリと倒れ込んでしまいそうなほどの快感の中で、私は清貴に支えてもらいながら懸命に立っていた。

廊下に見えた人影はとっくにどこかへ行っている。視姦ていたかどうかはわからないけれど……気持ちよく絶頂た後となっては、いまさらどっちでもいいことね。

「じゃ、じゃあ行こうか……風邪とか引いたら良くないし……」

射精だけ射精てから気遣っても遅いわ。といっても、私だって絶頂までやめさせるつもりはなかったけれど。

「そうね。試験も近いし、その後は……」

期末の試験休みに入ったら、私と清貴は一泊二日の小旅行に出る予定になっている。別段有名な場所でもない。だけど、誰も私たちを知らない場所。

そこでなら、すべての恥を掻き捨てることができる。

裸になろうが、
お漏らししようが、
おちんちんとおまんまんを繋げていようが……！
それを思うと、つい彼氏に甘えたくなってしまう。
自分の傘はその場で畳み、清貴の腕をひょいと絡め取った。
「さすがにそろそろ戻らないとね。教室で温まってから帰りましょ♪」
雪山よろしく、裸のまま抱き合うことになるのでしょうね。
ただ、ちょっと事情が異なるのは……体力が尽きるまで、性と性を交わらせてもいい、ってことくらいかしら。

＊＊＊

冬休みの旅行は……ホンっトーに楽しかったー!!
電車の中では流れていくホームから視姦されて、
駅前では素っ裸になっておしっこしちゃったし、
デートスポットでは……他のカップルを巻き込んで集団セックス❤
私の抱いていた妄想が、全部叶ってしまったかも。

その反動か……

休みの残りは、ちょっと地味だったかもね。近所の小さな神社に全裸参りくらいはしたけれど。

でもね……寒いのよ！

清貴は外で脱ぐこと自体に快感を見出してるからいいけど、私は視姦（みか）られたいんだから。誰もいないところで裸になっても、正直キツイ。暖かくなるまでは控えめにさせて。春になったら、それこそ全裸町内一周でもなんでも付き合ってやるから。あ、でもそれだけでなく、またどこかに露出旅行したいかも❤

ということで、学校が始まってからの方が、私の性感（カラダ）はワクワクしていた。自分の性癖に気づいてからというものの、制服の中はノーブラノーパン。休み時間には校舎の隅っこでセックスしている噂の変態カップルになっちゃった❤

お陰で、クラスの女子からは完全に軽蔑されてしまっている。ま、いいけど。同性とつるむより……ううん、他の誰より、清貴と一緒にいる方が楽しいから！

一方、清貴の方は……男子は、エロスに対してやや寛大みたいね。今までどおりに友人らと馬鹿やってる。三学期始業式の後も、みんなでどこかに遊びに行くって。今も教室の隅で楽しげに雑談しているわ。

「今度の大会のポスターさー、頼まれてくれよー。前回なんて、自分の学校だったのにアウェイ状態だったんだぜー」

そんなお願いに対して、清貴の返事はいつもコレだ。

「よーし、それなら僕が一肌脱ぐよっ！」

と言って、すぐさまベルトに手を掛け始める。あの男は前科持ちだからねぇ、ほっといたら本当にその場で脱ぎかねない。友人らもそれを知っているからこそ慌てて止めてくれる。ただ、去年までは『やめとけ！　女子もいるんだぞ！』ってツッコミだったけど……

「お前じゃなくて、彼女を脱がせよ！」

他の女子が聞いたらブン殴られそうなセクハラだ。でも、私は笑みに憐れみを込めて聞き流している。彼らは、憶測だけで冷やかしているにすぎない。私のスカートの中身だって確かめようもないのでしょう？

でも、いつかきっとやってしまう気がする。それこそ、卒業式を終えた後の打ち上げなんかで……❤

こうして、何事もなく三学期初日は過ぎたのだけど……

通常授業の始まる二日目になって、事件は起きた。

帰りは大抵清貴に送っていってもらってるけど、登校はひとりのことが多い。別段急ぐ必要もなく、私は普段どおりに教室へ着いた。

でも……どことなく空気がおかしい。そこはまるで病室のような。教室なのに、何故か誰かに気を遣っている。その誰か、とは――

「……っ！」

飾り気のない濃紺ロングのダッフルコート。

ほつれ一つなくキッチリ結び込まれた腰まで届く三つ編み。

そして――トレードマークとも言える赤弦の眼鏡。

何より、誰も寄せ付けない険しい雰囲気――まさしくヤツは、正義の監視員・雨弓（あまゆみ）来禾（らいか）……！

彼女こそ――一学期の終わりに不登校となった、学級委員の片割れである。

添牙いろはの作品紹介

空色書房
Sleeping under the sky

露出少女と痴女の
モラルなき戦い！

裸族忍者シリーズ

いつでもどこでも脱ぎたがる
露出少女・埋竹礼菜
大好きな男と子供を成すことに
人生を懸けて迫ってくる痴女・鷹池。
そんな二人に翻弄され続ける
流され男子の痴情まみれの官能ライトノベル！

詳しくはWebで
http://soekiba.net/ninja/

添牙いろはの作品紹介

空色書房
Sleeping under the sky

Comicalize

忍者の愛した露出狂

私の彼氏は露出狂――
埋竹雛菊は恋人の悪癖に
嫌気が差しながらも、
そのとき垣間見せる男らしさに
どうしても惹かれてしまう。
本気の彼とぶつかるために、
彼女もまた、深夜の公園で
一肌脱いでみるも――

官能ライトノベル『忍者の愛した露出狂』が
ついに堂々のコミカライズ！

詳しくはWebで
http://soekiba.net/ninja/0001/

空色書房
Sleeping under the sky

イジメの起きない イジメ小説!?

いじめられっ子の処方箋

正義の投与の行く末は

イジメ撲滅運動——
とある高校で突如始まったこの騒動に
埋竹雛菊(まいたけ ひなぎく)は意図せず巻き込まれていく。
しかし……
そもそも、イジメとは何なのか？
そんな疑問に突き当たる。
悩み抜いた末に、辿り着いた結論とは……？
そして、運動を取り仕切る
学級委員・雨弓来禾(あまゆみ らいか)の真の目的とは……？
イジメと向き合うすべての人に送る一冊です。

コミカライズ版 総集編第1巻も 各配信サイト様より公開中

詳しくはWebで
http://soekiba.net/presc/

添牙いろはの作品紹介

空色書房
Sleeping under the sky

アストラルツインズ
兄は指揮官に妹は銃殺刑に

迫り来る反逆者（テロリスト）
担がれる民間人（プリンセス）
そして…
掻き乱す問題児（アホの子）!

アストラルツインズ2
兄は国を憂い主女は国を滅ぼす

つらアストラ!?
妹はお風呂嫌いで
主女は珈琲竹お好き
アストラルツインズ
後日談的R-18短編集!

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

詳しくはWebで
http://soekiba.net/astra/

空色書房
Sleeping under the sky

詳しくはWebで

http://soekiba.net/game/

添牙いろはの作品紹介

空色書房
Sleeping under the sky

未知なる世界で
どう生き延びる…？

それが彼女の
soregа kanojo no
生存戦略！
seizon senryaku

オトナ向けな
番外編的短編集
『それが彼女の
性交戦略！』も
こっそり公開中!?

学校が異世界に飛ばされた!?
それでも見知らぬ大地の上で
誰もが逞しく生き延びてゆく。
ある者は『力』で、
ある者は『智』で、
ある者は『心』で、
ある者は『愛』で。
そして……
彼女たちは元の日常に
帰ることができるのだろうか……!?

詳しくはWebで
http://soekiba.net/4girls/

添牙いろはの作品紹介

空色書房
Sleeping under the sky

未知なる世界で
どう生き延びる…？

それが彼女の
soregа kanojo no
生存戦略！
seizon senryaku

オトナ向けな
番外編的短編集
『それが彼女の
性交戦略！』も
こっそり公開中!?

学校が異世界に飛ばされた!?
それでも見知らぬ大地の上で
誰もが逞しく生き延びてゆく。
ある者は『力』で、
ある者は『智』で、
ある者は『心』で、
ある者は『愛』で。
そして……
彼女たちは元の日常に
帰ることができるのだろうか……!?

詳しくはWebで
http://soekiba.net/4girls/

空色書房
Sleeping under the sky

詳しくはWebで
http://soekiba.net/rev/

添牙いろはの作品紹介

空色書房
Sleeping under the sky

僕と私の露出日記

The diary of Sleeping under the stars for Ours

自然の中で育ち、
裸で野山を駆け回るのが
好きな少年。
非日常を求めて裸になり、
その快感に
目覚めてしまった少女。
孤独に背徳的性欲を
膨らませてゆく二人だったが、
ついに――

立派に育った露出癖

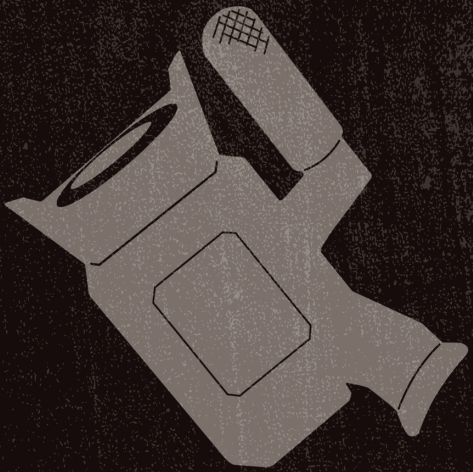
わたしとあなたの露出交換日記

野外で裸に
なりたい男と
他人の痴態を
覗きたい女。
出逢ってはならない二人が
出逢ってしまい――

スピンオフでも
野外で全裸！

詳しくはWebで
http://soekiba.net/outdoor/

空色書房
Sleeping under the sky

自らの露出癖を受け入れ、
人目を憚らず愛し合う埋竹雛菊。
しかし……年も変わった新学期、
休学していた仇敵・雨弓来禾が教室に現れて――
素っ裸で迫る学級委員に素っ裸で対抗する雛菊だったが、
彼女らの狂気の抗争はクラス全体へと伝搬してゆき…

巻末の後日談には、娘・礼菜も全裸で登場！